

千葉文化

CHIBA PREFECTURAL CENTRAL LIBRARY

千葉県立中央図書館報



資料散策 70

『真間中山詣』 ^{とうこうとく} 藤耕徳／書 1790(寛政2)年

江戸・日本橋から下総国・真間中山に向かい、戻るまでの道の名所旧跡や景観を紹介する往来物。^{おうらいもの}「往来物」とは寺子屋などで広く使われた教科書のことで、「往来」ともいいます。

巻頭の真間中山周辺を描いた図には、弘法寺、手児那明神、総寧寺などの神社仏閣がみえます。本文は全一通の手紙文で各所の景観、名物などを紹介しており、旅の風情を感じることができます。千葉県立図書館ホームページの「菜の花ライブラリー」(千葉県デジタルアーカイブ)でもご覧いただけます。



千葉県 150 周年

～県の史誌を振り返る～



明治 6（1873）年 6 月 15 日、当時の木更津県と印旛県が合併し、千葉県が誕生しました。令和 5（2023）年は千葉県が誕生して 150 周年の節目の年です。

今回は、千葉県の成立からこれまでに県や郡が発行した自治体史を紹介します。

背景画像：「千葉県管内実測全図」（『千葉県誌』付録）

『千葉県誌 巻上・巻下』 大正 8（1919）年

明治 35（1902）年、県会の決議により、千葉県史の編纂事業が企画されました。同年 4 月から編纂が始まり、明治 41（1908）年に稿本が書き上げられましたが、しばらくそのままになっていました。

大正 3（1914）年になってこの稿本を出版することが決まり、さらに調査・校訂を重ねた上で、大正 8（1919）年 5 月、着手から 17 年の歳月を経てようやく刊行されました。しかしその「緒言」には、まだ完全ではないため改版が待たれる旨が書かれています。

上巻は自然地理・人文地理、下巻は通史・人物・史跡に関する事項が掲載されています。当時としては写真や図版が豊富に収録されています。



『千葉県十二郡誌』

大正 2（1913）年～昭和 2（1927）年

県内 12 郡（千葉・東葛飾・印旛・香取・海上・匝瑳・市原・長生・山武・君津・夷隅・安房）の教育会の主導により、郡に関する地理・歴史・人物・風俗等をまとめた郡誌がそれぞれ刊行されました。編纂目的は、愛郷心を高めて自治の発展に役立てるためとされ、大正天皇即位記念事業として編纂されたものもあります。

構成や分量は郡によって異なりますが、郡内の町村誌を併せて収録しているものが多く、最も大部の『千葉県東葛飾郡誌』は全 2,436 ページにも及びます。

各郡誌は、千葉県立図書館ホームページ「菜の花ライブラリー」にてご覧いただけます。

(https://www.library.pref.chiba.lg.jp/nanohana/archive/guide_07.html)



レファレンスサービスのご紹介

レファレンスサービスとは、知りたい資料や情報を、図書・雑誌・新聞・電子情報などから探すためのご案内、資料提供や情報提示をして、調べもののお手伝いをするサービスです。「『〇〇』という本はあるか」、「あるテーマの本を探している」、「ある事実そのものを確認したい」。そんな場合には、ぜひ県立図書館にお問い合わせください。カウンターの他、メールや電話でも受け付けています。

質問

和歌「弓張の月のやどれる底を見てなるかの海に海士のいるらん」の作者を知りたい。



『千葉県史料』 昭和 29（1954）年～平成 3（1991）年

『千葉県史（明治編・大正昭和編）』 昭和 37（1962）年～昭和 42（1967）年

大正以来の県史編纂事業が開始したのは終戦後の昭和 25（1950）年です。この頃、戦後の混乱によって失われる史料は少なくありませんでした。そのような中で始まった県史編纂事業は、県内に散在する史料を集録することに主力を注いで行われました。そしてできあがったのが、県内の古文書類を収集・掲載した『千葉県史料』32 巻と、通史編にあたる『千葉県史』明治編・大正昭和編です。今では史料編と通史編という構成は珍しくありませんが、史料編の刊行は当時全国的に見ても珍しく、その後の県内市町村史編纂にも影響を与えたと言われます。この編纂作業は、県立中央図書館長だった甘日出逸暁をはじめ、複数の図書館員も加わって行われました。



『千葉県の歴史 通史編・資料編・別編』 平成 8（1996）年～平成 21（2009）年

『千葉県の自然誌 本編・別編』 平成 8（1996）年～平成 17（2005）年

旧県史『千葉県史』は近代史を中心に作られたもので、近世以前についての通史編は作成されませんでした。近年の社会情勢の大きな変化もあり、近世以前の通史とあわせて補うことで更に充実させようと、平成 3（1991）年から新県史の編纂が始まりました。

新県史は平成 21（2009）年までの 18 年間にわたって編纂・刊行され、歴史系 39 巻と自然誌系 12 巻の全 51 巻で構成されています。動植物、地学分野を網羅した総合的な自然誌は、全国初の取り組みでもあります。

平成 14（2002）年からは点字版の作成も始まっており、令和 4（2022）年時点では、通史編 8 巻のうち 5 巻の点字版が刊行されています。



回答

作者は「平祐挙（たいらすけたか、たいらのすけたか）」。

【資料 1】『新編国歌大観 第 2 巻 [1] 私撰集編』

（「新編国歌大観」編集委員会編 角川書店 1984）p695

「夫木和歌抄卷第二十三雑部五」、新編国歌大観の番号「一〇三三一」

「家集、上総なるかのうみ 平祐挙

弓はりの月のやどれる底をみてなるかの海にあまのいるらん」

【資料 2】『日本伝説叢書 上総の巻』（藤沢衛彦編著 すばる書房 1977）p90

「弓張の月のやどれる底を見てなるかの海にあまの入るらん。（「夫木集」一祐挙）」

【資料 3】『千葉県誌 巻下』（千葉県編纂 多田屋書店 1919）p676

「勝浦町に在り、夫木集祐挙の歌に、弓張の月の宿れる底を見て奈流迦の海に蟹の入るらん」



「親子で楽しむ昔話」を開催しました

令和4年8月6日（土）・7日（日）の2日間にわたり、県立房総のむらの夏のイベント「むらの縁日・夕涼み」で「親子で楽しむ昔話」を開催しました。房総のむらにある「上総の農家」という茅葺きの建物で、わらべうたや昔話の素話、地域の伝説を扱った絵本の読み語りなどを行いました。

延べ22組70名と多くの方が来場され、安食や印旛沼など千葉県の地名が出てくる場面では、歓声も上がるなど、昔話を楽しんでいる様子でした。



ツイッターで発信しています

千葉県立図書館 @chibaken_lib 2日
【中央】全国の図書館に寄せられた子どもからの質問を集めた本が出版されました。当館が回答したかわいい質問も2つ掲載されています。
「このうんちは、なんのうんち？」
「千円札の裏にある富士山は、どこから撮られたのか？」
#レファレンス #レファレンス協同データベース



新着図書、おすすめの本の紹介、館の運営状況などをツイートしています。

右の二次元コードをスマートフォンのカメラや二次元コードのアプリで読み取ると、県立図書館公式ツイッターアカウントへアクセスできます。



https://twitter.com/chibaken_lib

長柄町公民館

～ ルポルタージュ千葉70 ～

令和4年10月、房総のど真ん中、長柄町の公民館が新しく生まれ変わりました。新たな公民館の愛称は「ながランホール」。町のマスコットキャラクター「ながラン」にちなみ名付けられました。天井や壁に千葉県産の杉材を使用したり、ホール内に樹木を配置したりと、目にも優しい、くつろぎの空間となるよう配慮されています。

図書室は、利用者が開放感を覚えやすい工夫がなされています。さらに、廊下や隣接する交流ラウンジとの間の扉や壁を取り除くことによって、「図書スペース」として誰でも気軽に立ち寄れるような構造になっています。

また、長柄町では、以前から児童コーナーの充実を図ってきました。その流れは新館でも踏襲されており、全体の1/3以上が児童スペースに割り当てられています。また、児童用の椅子・テーブルや絨毯コーナーも設けられ、子どもたちが本に親しみやすい環境が整っています。

なお、公民館内には新たに学童クラブが併設されました。図書室では、学童クラブ全体へ定期的な貸出を行うとともに、学童に通う子ども個々への貸出にも対応するなど、子どもの読書活動を支援しています。



＜利用案内＞

〒297-0218

千葉県長生郡長柄町桜谷 690

Tel 0475-35-3242

開館時間

9時～17時

休館日

月曜日

※月曜日が祝日のときは、最も近い平日

12月28日～1月3日

特別な事情で館長が休館と認めた日

<https://www.town.nagara.chiba.jp/soshiki/9/118.html>